

放課後等デイサービス事業所における自己評価結果(公表)

公表:平成31年2月末日

事業所名 幸樹2号館

		チェック項目	はい	いいえ	どちらとも いえない	工夫している点	課題や改善すべき点を踏まえた 改善内容又は改善目標
環境・ 体制整備	1	利用定員が指導訓練室等スペースとの関係で適切である	43%	57%	0%		児童発達と放デイの活動場所と距離感を見直しし 過ごしやすい場所を作る
	2	職員の配置数は適切である	29%	57%	14%		職員が円滑に動ける様ポジションの見直しや 働きやすい工夫を行う
	3	事業所の設備等について、バリアフリー化の配慮が適切になされている	43%	0%	57%	段差や危険な場所がない様にしている	
業務改善	4	業務改善を進めるためのPDCAサイクル(目標設定と振り返り)に、広く職員が参画している	57%	29%	14%	毎月ミーティングを行い共有を図っている	
	5	保護者等向け評価表を活用する等によりアンケート調査を実施して保護者等の意向等を把握し、業務改善につなげている	86%	14%	0%	毎月のミーティングで改善内容を話し合っている	
	6	この自己評価の結果を、事業所の会報やホームページ等で公開している	71%	0%	29%	ホームページで公開している	
	7	第三者による外部評価を行い、評価結果を業務改善につなげている	29%	29%	42%		今後第三者評価等を検討する
	8	職員の資質の向上を行うために、研修の機会を確保している	43%	0%	57%	研修報告書を作成し内容を共有している	研修の機会を増やし質の向上を図る
適切な 支援の 提供	9	アセスメントを適切に行い、子どもと保護者のニーズや課題を客観的に分析した上で、放課後等デイサービス計画を作成している	71%	0%	29%	ニーズを共有してズレの無い様記録している	
	10	子どもの適応行動の状況を把握するために、標準化されたアセスメントツールを使用している	72%	14%	14%	アセスメントを取り特性を把握する	WISCの結果や通院記録を保管し確認できるように
	11	活動プログラムの立案をチームで行っている	100%	0%	0%	毎日のミーティングで内容を相談している。	
	12	活動プログラムが固定化しないよう工夫している	57%	0%	43%	月間でプログラムを立案している	各職員が多様な起案を行っていく
	13	平日、休日、長期休暇に応じて、課題をきめ細やかに設定して支援している	57%	29%	14%	毎月課題を決めている	
	14	子どもの状況に応じて、個別活動と集団活動を適宜組み合わせ放課後等デイサービス計画を作成している	86%	0%	14%		個別・集団活動の内容の見直しを行う
	15	支援開始前には職員間で必ず打合せをし、その日行われる支援の内容や役割分担について確認している	71%	29%	0%	毎日ミーティングを行い確認を行っている。	
	16	支援終了後には、職員間で必ず打合せをし、その日行われた支援の振り返りを行い、気付いた点等を共有している	29%	42%	29%	共有できる様グループラインやノートにに記載し もれのない様にしている	日々支援の見直しを行う
	17	日々の支援に関して正しく記録をとることを徹底し、支援の検証・改善につなげている	86%	0%	14%	児童の記録をとっている。	
	18	定期的にモニタリングを行い、放課後等デイサービス計画の見直しの必要性を判断している	86%	0%	14%	モニタリング内容は各職員で共有している	
19	ガイドラインの総則の基本活動を複数組み合わせ放課後等デイサービス計画を作成している	71%	0%	29%			

関係機関や保護者との連携	20	障害児相談支援事業所のサービス担当者会議にその子どもの状況に精通した最もふさわしい者が参画している	86%	0%	14%	児童への共通理解が全職員にある	
	21	学校との情報共有(年間計画・行事予定等の交換、子どもの下校時刻の確認等)、連絡調整(送迎時の対応、トラブル発生時の連絡)を適切に行っている	86%	0%	14%	毎月日程や時間の調整を行い情報共有をマメに行っている	
	22	医療的ケアが必要な子どもを受け入れる場合は、子どもの主治医等と連絡体制を整えている	57%	0%	43%	医療的ケア児はいないが連絡体制は整えている	
	23	就学前に利用していた保育所や幼稚園、認定こども園、児童発達支援事業所等との間で情報共有と相互理解に努めている	57%	0%	43%	情報共有を行える様書類として保管を行っている	
	24	学校を卒業し、放課後等デイサービス事業所から障害福祉サービス事業所等へ移行する場合、それまでの支援内容等の情報を提供する等している	43%	0%	57%	書類に結果等を残し提供できる様にしている	
	25	児童発達支援センターや発達障害者支援センター等の専門機関と連携し、助言や研修を受けている	43%	0%	57%		今後専門機関との連携を図り研修機会等を設ける
	26	放課後児童クラブや児童館との交流や、障がいのない子どもと活動する機会がある	43%	43%	14%	児童館や公園で交流の機会がある	
	27	(地域自立支援)協議会等へ積極的に参加している	43%	14%	43%	実施の連絡があった際は参加する様にしている	
	28	日頃から子どもの状況を保護者と伝え合い、子どもの発達の状況や課題について共通理解を持っている	86%	0%	14%	常時課題について相談し合っている	
保護者への説明責任等	29	保護者の対応力の向上を図る観点から、保護者に対してペアレント・トレーニング等の支援を行っている	42%	29%	29%		今後ペアレントトレーニング等のアドバイスをやっていく
	30	運営規程、支援の内容、利用者負担等について丁寧な説明を行っている	86%	0%	14%	契約時に必ず説明を行っている	
	31	保護者からの子育ての悩み等に対する相談に適切に応じ、必要な助言と支援を行っている	71%	0%	29%	職員と保護者様が支援の方針や助言を行っている	
	32	父母の会の活動を支援したり、保護者会等を開催する等により、保護者同士の連携を支援している	71%	0%	29%	親子参加の行事で交流できる場を設けている。	参加型行事の機会を増やす事を検討している
	33	子どもや保護者からの苦情について、対応の体制を整備するとともに、子どもや保護者に周知し、苦情があった場合に迅速かつ適切に対応している	86%	0%	14%	マニュアル等対応する体制を整えている	
	34	定期的に会報等を発行し、活動概要や行事予定、連絡体制等の情報を子どもや保護者に対して発信している	57%	14%	29%	SNSやホームページで活動内容を発信している。月間行事予定を配布している。	会報を配布できるよう努めていく。
	35	個人情報に十分注意している	86%	0%	14%	鍵付のロッカーを使用している	
	36	障がいのある子どもや保護者との意思の疎通や情報伝達のための配慮をしている	71%	0%	29%		
	37	事業所の行事に地域住民を招待する等地域に開かれた事業運営を図っている	29%	29%	42%		地域の方が参加できる行事を提案、検討していく。

非常時等の対応	38	緊急時対応マニュアル、防犯マニュアル、感染症対応マニュアルを策定し、職員や保護者に周知している	42%	29%	29%	マニュアルをすぐに確認できる場所に配置している。	
	39	非常災害の発生に備え、定期的に避難、救出その他必要な訓練を行っている	42%	29%	29%		訓練の内容の見直しを行う。
	40	虐待を防止するため、職員の研修機会を確保する等、適切な対応をしている	57%	29%	14%		研修の機会を増やしていく
	41	どのような場合にやむを得ず身体拘束を行うかについて、組織的に決定し、子どもや保護者に事前に十分に説明し了解を得た上で、放課後等デイサービス計画に記載している	42%	29%	29%	同意書を作成し十分に説明している	支援企画への記載を見直し詳しく記載と説明を行う
	42	食物アレルギーのある子どもについて、医師の指示書に基づく対応がされている	72%	14%	14%	アレルギー調査を行っている	
	43	ヒヤリハット事例集を作成して事業所内で共有している	42%	29%	29%	作成したものは全職員で共有している	ヒヤリハットの必要性をしっかりと説明していく